

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(2 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

暴力・宗教・性の語りをめぐって

Narratives on Violence, Religion and Sexuality

2. 研究代表者氏名

菊地暁

KIKUCHI Akira

3. 研究期間

2018 年 04 月 - 2020 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

本研究班の目的は、語りに注目しながら現代世界における暴力、宗教、性(ジェンダー/セクシュアリティ)を個別にではなく、包括的に考察することにある。ここでいう暴力は、国家間の軍事活動から、集団による他集団への暴力、そして個人間の対立、性暴力まで様々なものを含む。具体的には、主として文化人類学者を中心に、語りについての一次資料に基づいて考察を行う。また、ミクロな事例だけを分析するのではなく、国家や国際組織の活動を念頭に置いて、暴力の発動や抑圧、宗教や性の統御の問題を取り上げる。さらに、暴力や宗教、性が引き起こす問題との関係で、医療、司法、アートなどの領域をも研究対象とする。

5. 本年度の研究実施状況

今年度は、本研究の最終年であり、発表より原稿執筆に時間を割くことにした。10 月末に原稿をまとめ、編集作業に取り掛かっている。また、10 月に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された日本南アジア学会にてパネルを組織し本研究の成果の一部を発表した。

6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

7. 本年度の研究実施内容

2019-07-06 インド刑法 377 条 発表者 山崎浩平

インド領パンジャブ出身移民女性が経験するジェンダーに基づく暴力的状況 発表者
東聖子 近畿大学

2019-09-06 帝国日本と少女歌劇 趣旨説明と資料紹介:宝塚少女歌劇と民俗学 司会 菊地暁

日本少女歌劇座について 発表者 鶴飼正樹 京都文教大学

宝塚少女歌劇と小林一三の国民劇構想 発表者 宮本直美 立命館大学

東アジアの少女歌劇系芸能:台湾を中心に 発表者 細井尚子 立教大学

巡回ミュージカル草創期における明月社と黎錦暉 発表者 貴志俊彦 東南アジア地域研究研究所

芸能の場の再検討 発表者 三須祐介 立命館大学

音楽からみる少女歌劇 発表者 輪島裕介 大阪大学

少女／演劇／写真 発表者 佐藤守弘 京都精華大学

2019-10-26 ネパールにおける性・暴力・労働:元不可触民の移動の経験 発表者 藤倉康子 東南アジア地域研究研究所

女王エリザベス1世の神秘主義と英国東インド会社創設:ジェンダー的視点からみた統治、外交と戦争、宗教政策そして理想世界 発表者 川西孝男 東京大学史料編纂所

2019-10-27 吉原遊廓跡見学

8. 共同研究に関連した公表実績

該当なし

9. 研究班員

所内

石井美保、菊地暁

学内

藤倉康子(東南アジア地域研究研究所)、岩谷彩子(人間・環境学研究科、地球環境堂)、島田有紗(人間・環境学研究科 博士課程)、川本直美(人間・環境学研究科 博士課程)

学外

田中雅一(国際ファッション専門職大学)、河西瑛里子(国際ファッション専門職大学)、中屋敷千尋(日本学術振興会)、澤野美智子(立命館大学)、村上薫(独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所)、東聖子(近畿大学)、赤堀雅幸(上智大学)、小牧幸代(高崎経済大学)、辻上奈美江(上智大学)、内藤順子(早稲田大学)、嶺崎寛子(愛知教育大学)、齋藤剛(神戸大学)、佐々木祐(神戸大学)、和崎聖日(中部大学)、工藤正子(京都女子大学)、川西孝男(東京大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内		2 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	11 (5)	0 (0)	3 (3)	8 (2)
学内		1 (1)	0 (0)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学		5 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	0	8 (2)	0 (0)	6 (4)	1 (1)	11 (5)	0 (0)	3 (3)	8 (2)

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画
なし

14.次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

各班員の報告に基づいた論文集を準備中である。